株式会社八清

心が動くような家をつくりたい

－良質な社会ストックを未来へ－

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年に渡って賛助団体としてご協力いただいている、株式会社八清です。同社代表取締役社長の西村直己さんにお話を伺いました。

付加価値をつけるビジネスモデル

私たちは一般的には取り扱いが難しいような再建築不可の物件など、中古物件に光る部分を見出し、改修して手を加え、安全性を高めるなど付加価値をつけた不動産を販売・賃貸しています。細街路や京町家を保全する事業はかなりの件数を手掛けてきましたが、これからは戸建てやビル、マンションについても、コンバージョンでコレクティブハウスの要素を取り入れた不動産を生み出していきたいと考えています。効率性とは逆の発想かもしれませんが、感性を刺激する、心が動くような家をつくりたいですね。社会ストックとして長く使っていただけるような家（不動産）をつくることで、京都の景観や町並みに貢献していくことを目指しています。

面白いと思ったことを実現できる機会をつくる

最近は、数値解析を用いて京町家の断熱性・気密性を高めるチャレンジ、相続対策にもなるような投資提案、リノベーションや活用に関心を持たれている方々からのアイデアを取り入れて商品化していくアイデアプラットフォームのプロジェクトなど、新しい手法によるものづくりにも取り組んでいます。

エリアリノベーションの火付け役として

今後も不動産と建築を融合した事業を通じて、プロジェクトに投資できる仕組みを創り、エリアリノベーションやまちづくりに貢献できればと思います。

とかく都心部は地価が高騰して進出できるのは資本力のある所だけになってしまう傾向があります。しかし、京都で生まれ育った者としては、町中にあっても自然が感じられてローカルな動きが面白い、住んで楽しいまちであってほしいです。

（株）八清 代表取締役　西村 直己 氏

ニュースレター
京まち工房 100
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3 ニュースレター「京まち工房」100号の軌跡

CONTENTS

P4 ファンド見学会
P5 京町家等継承ネットの活動
P6 新専務就任あいさつ
P7 専門家紹介／スタッフのつぶやき／表紙イラスト作者紹介
P8 企業・団体紹介

令和4年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京くらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY TOURISM ASSOCIATION	ART GALLERY & DENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	

ニュースレター京まち工房　第100号　2022年9月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES ステップ1登録　京都市ISO14001コミュニティ活用会

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター「京まち工房」100号記念特集

「京まち工房」100号の軌跡 HISTORY

今号をもちまして、ニュースレター「京まち工房」は記念すべき100号を迎えました。1997年12月に創刊号が発行されてから25年の歳月が流れました。25年の間には、多くの方々のご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

「京まち工房」は、25年間、京都のまちの中で生まれる様々な活動や想いを、まちセンの活動を通じて眺め、発信し続けました。「京まち工房」のこれまでを振り返ります。

「京まち工房」創刊時の時代背景

「京まち工房」は、1997年（平成9）のまちセン設立の年に創刊しました。1997年は、阪神淡路大震災が発生しボランティア元年ともいわれた1995年からわずか2年後であり、地域まちづくりや市民活動などが、改めて注目されていた時期にあたります。また京都では、その翌年にまちの個性を活かしながら都心の再生をはかるための「職住共存地区整備ガイドプラン」が策定され、2000年（平成12）には京町家を原点とするまちづくりを展開する方策として「京町家再生プラン」が発表され、京町家保全への関心が高まり始めていました。

積極的な事例紹介・情報提供、活動紹介

「京まち工房」は、市民、企業、大学、行政等の様々な主体のまちづくりの取組を紹介し、発信してきました。

「京まち工房」の創刊号の特集は、「めばえています地域のまちづくり」。創刊からしばらくは、「あなたのまちづくり拝見」コーナーで京都のまちづくり活動事例を、「お知恵拝借」コーナーで他都市のまちづくり活動事例を紹介し、さらに京町家再生事例を紹介するスタイルを基本としながら、その時々の話題を掲載しています。創刊号から50号までは「情報交流誌」というサブタイトルがついていたことから見ても、京都や他都市の先進事例を積極的に発信することで、情報交流を図りたいという、まちセンの願いが見て取れます。

創刊号

2号

公募により選定された「京まち工房」の愛称とロゴマークは第2号より登場。

時代の流れを反映

2004年（平成16）の28号では、はじめて京町家関連の話題が巻頭特集として掲載されました。翌年には京町家まちづくりファンドが設立されるなど、京町家保全の取組が改めて重要視されていることが伺えます。

2011年（平成23）に発生した東日本大震災の後には、復興や防災をテーマにしたシンポジウムなどのイベントの様子が掲載され、まちづくりの重要な要素として「防災」がクローズアップされていることが見て取れます。（55、59号）

2013年（平成25）には、訪日外国人客数が1千万人を突破するなど、インバウンド需要が拡大する中、京町家の活用方法として一棟貸しの簡易宿所が脚光を浴び、それまでの飲食店中心の京町家活用ブームに新たな兆しが見え始めました。それらと時期を同じくして「京まち工房」でも京町家関連の特集記事が増えていきます。

2017年（平成29年）の78号では、巻頭特集として「路地のある風景、路地がつくる文化を残したい。」、2019年（令和1）の88号では、「『京都らしさ』残す防災まちづくり」が掲載され、京都での防災まちづくりの取組が、地域に蓄積された文化を継承しつつ安全性の確保を目指していることを紹介しています。

2020年（令和2）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響下での「withコロナ」に関する各地域の取組を紹介し、有識者の寄稿を掲載するなど、感染症の拡大が京都のまちづくりに与えた影響が記事にも反映されていました。

28号

55号

59号

78号

200号を目指して

「京まち工房」は、まちセンの活動を通して、京都の景観・まちづくり活動の推移を追い続けました。限られた紙面の中では、ご紹介しきれない活動も多くあったかと思います。2018年（平成30）の83号からの4年間は、表紙を有効活用すべく、グレゴリ青山さんの「京都人㋮の京都知らず」を掲載し、マンガで京都の景観・まちづくり活動を紹介しました。2022年（令和4）の99号からは、新たに山口珠瑛さんの京都の年中行事や生活文化を描いたイラストが表紙となっています。

「京まち工房」は、これからも200号を目指して、京都の景観・まちづくりの取組を発信し続けます。

83号

表紙にグレゴリ青山さんの『京都人㋮の京都知らず』が登場

	まちセンの出来事 京まち工房の内容	関係する京都市の出来事	日本、世界の出来事
1997年（H9）	京都市景観・まちづくりセンター　設立 元龍池小学校1階にて活動をスタート 「まちづくり相談」開始 「景観・まちづくりシンポジウム」開始 12月「京まち工房」創刊 創刊号表紙「めばえています地域のまちづくり」		国内では、山一証券自主廃業 海外では、香港の中国への返還など
1998年（H10）	「第Ⅰ期京町家まちづくり調査」実施（市民活動団体との協働） 「学生まちづくりコンクール」開催　各種セミナー開始	「職住共存地区整備ガイドプラン」策定	特定非営利活動促進法（NPO法）施行、 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催
1999年（H11）	「第1回 景観・まちづくりコンクール」開催		
2000年（H12）		「京町家再生プラン」発表	
2001年（H13）	「京町家なんでも相談」開始 「第1回 まちづくり交流博」開催		国内では、小泉政権発足　構造改革スタート 海外では、アメリカ同時多発テロ
2002年（H14）	「なるほど！京町家の改修」出版		
2003年（H15）	ひと・まち交流館京都内に移転　「景観・まちづくり大学」開始 「第Ⅱ期京町家まちづくり追加調査」実施	「京都市市民参加推進条例」施行	ビジット・ジャパン・キャンペーン実施
2004年（H16）	巻頭特集「京町家保全・再生・活用に取り組む各種団体の動向」 京町家まちづくり調査結果掲載（28号）		新潟県中越地震 「景観法」施行
2005年（H17）	景観整備機構第一号に指定　京町家まちづくりファンド設立 巻頭特集「景観法と景観整備機構」（31号） 巻頭特集「京町家まちづくりファンドの概要について」（33号）		JR福知山線脱線事故
2006年（H18）	京都市景観・まちづくりセンター指定管理者となる 「京町家改修助成モデル事業」実施 京町家改修助成モデル事業や京町家まちづくりファンドの取組が継続的に掲載される	まちづくりアドバイザー配置開始 景観法に基づく「景観重要建造物」を全国初指定	
2007年（H19）	設立10周年　「京都まちづくり学生コンペ」開催	京都市新景観条例施行	新潟県中越沖地震
2008年（H20）	「第Ⅲ期京町家まちづくり調査」実施（京都市、立命館大学、まちセン）		「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」施行
2009年（H21）			民主党へ政権交代
2010年（H22）	ワールド・モニュメント財団の支援により「京町家再生プロジェクト」（第1期）実施		家族や地域社会の希薄化を表す「無縁社会」が流行語に
2011年（H23）	「京町家カルテ事業」開始 「東日本大震災・復興まちづくり」（55号）	「京都を彩る建物や庭園」制度開始 「地域景観づくり協議会制度」開始	東日本大震災
2012年（H24）	公益財団法人に移行 巻頭特集「防災からはじめるまちづくり」（59号）	「京都市地域コミュニティ活性化推進条例」施行	
2013年（H25）	第2回まちづくり法人表彰「まちの活性化・魅力創出部門」において国土交通大臣賞を受賞 「Travel+Leisure」誌（米国）「2013グローバル・ビジョン・アワード［文化部門］」を受賞	台風18号による大雨で、全国初の「大雨特別警報」発令	訪日外国人観光客数1千万人突破
2014年（H26）	「京町家等継承ネット」設立 巻頭特集「京町家等継承ネットの活動が始まります！」（69号） このころから、京町家関連の記事が増える	「京都市空き家等の活用、適正管理等に関する条例」施行	広島土砂災害 「空家等対策の推進に関する特別措置法」施行 消費税8%に
2015年（H27）	「上京オープンウィーク2015」開催 地域まちづくり・京町家専門家紹介スタート（71号）	「京都市地域景観まちづくりネットワーク」開始 「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略策定	
2016年（H28）	巽和夫記念文庫開設	「京都市宿泊施設拡充・誘致方針」策定 「京町家まちづくり調査追跡調査」実施	熊本地震
2017年（H29）	設立20周年 巻頭特集「路地のある風景、路地がつくる文化を残したい。」（78号） 「設立20周年記念特集」（81、82号）	「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」制定 「建築基準法第３条第１項第３号の規定に基づく指定に係る包括同意基準」施行 「路地保全・再生デザインガイドブック」発行	「住宅宿泊事業法」公布
2018年（H30）	ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞 （京町家再生プロジェクト第三期四条町大船鉾会所） 表紙漫画「京都人㋮の京都知らず」連載開始 まちづくりや京町家再生の現場を漫画に（83号）	「京都市住宅宿泊事業の適正な運営を確保するための措置に関する条例」施行 台風21号による甚大な被害が発生	大阪府北部地震 西日本豪雨
2019年（R1）	ザ・ベスト・イン・ヘリテイジ2019選出 （京町家再生プロジェクト第三期四条町大船鉾会所） 巻頭特集「『京都らしさ』残す　防災まちづくり」（88号）		「令和」改元 消費税10%に
2020年（R2）	展覧会『Machiya Vision』開催 「京町家をリノベする、その前に。」発刊 withコロナ、リモート時代のまちづくりなどを特集（92号）		新型コロナウイルスの感染拡大
2021年（R3）		持続可能な財政再建を目指す「行財政改革計画」策定 「京町家賃貸モデル事業」第１号 の京町家が再生	熱海市伊豆山土石流災害 東京オリンピック・パラリンピック開催
2022年（R4）	表紙に京都のくらしの文化を伝えるイラスト掲載開始（99号）		

これまで発行された「京まち工房」は、
まちセンホームページ（https://kyoto-machisen.jp/letter/）にてご覧いただけます。

京町家まちづくりファンド改修助成事業　**寄附者限定　特別企画**

参加者数 82名

郭巨山町会所改修プロジェクト見学会

令和3年度京町家まちづくりファンド改修助成事業に選定された郭巨山町会所の改修プロジェクトが、2022年6月末に竣工を迎えました。これを記念して京町家まちづくりファンドにご支援いただいている寄附者、協力者限定の見学会を開催しました。公益財団法人郭巨山保存会のご協力により、祇園祭での一般公開に先駆けての特別な機会となりました。改修プロジェクトの詳細は、ファンドのWEBサイトや記録集（発行予定）で特集いたします。

日時：2022年6月16日（木）　場所：郭巨山町会所（京都市下京区郭巨山町）

現地ゲスト　午前の部：魚谷 繁礼 氏（株式会社魚谷繁礼建築研究所 代表）　午後の部：平岡 昌高 氏（（公財）郭巨山保存会代表理事）

見学会の様子

四条通に面した外観

将来に何を残し、伝えるのか…

郭巨山町会所は四条通に現存する数少ない京町家の町会所として貴重です。これまでは会所飾りや保存会の方々が集まるには狭く、経年による劣化も懸念されました。保存会の方々は、未来の祇園祭の担い手たちに何を残すのか、負担をかけない方策とは何か、お祭のために何が必要かという議論を重ねてこられました。

この度、文化財でもある御神体や懸装品を安全に保管・公開して神事を行うために町会所を改修することを決断されました。改修に際しては、表通りの特徴的な外観デザインを残しつつ、奥の蔵部分と一体化した増築工事を施すため、京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例（建築基準法の適用除外）の指定を受けました。2022年3月に路地の趣ある町並み景観を維持するため、町会所が位置する膏薬辻子地区では地区計画も策定されました。

京町家まちづくりファンドでは改修計画の前段階から郭巨山保存会よりご相談を受け、改修プロジェクトを応援してまいりました。地域に開かれたまちづくりの拠点を支えるファンド事業においてもリーディングプロジェクトです。地域や保存会の方々の拠り所として、大切に継承されることを願っています。

今年は3年ぶりの祇園祭の宵山、山鉾巡行となり、広く美しく生まれ変わった郭巨山町会所で、会所飾りを拝観され、粽の授与を求められる皆様も晴れやかな様子でした。

【施主】公益財団法人 郭巨山保存会　【施工】株式会社 竹田工務店
【設計】株式会社 魚谷繁礼建築研究所　【工期】2021年10月～2022年6月

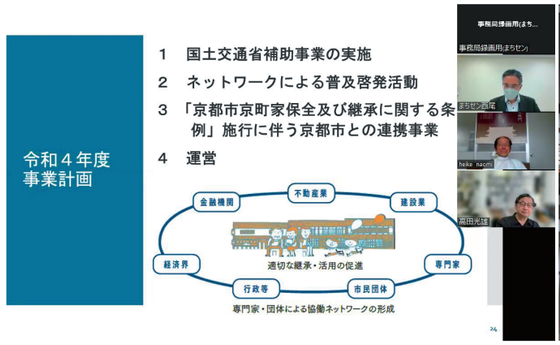
改修前の外観

改修後の外観

祇園祭の様子

広がる京町家等継承ネットの活動

京町家等継承ネットは、令和4年6月23日に第9回全体会議をオンラインにて開催しました。当日の報告の概要及び大型町家継承モデルプロジェクトの事例として報告した複数の事例のうち、2件をご紹介します。



オンライン会議の様子

A邸の外観（改修後）

令和3年度事業報告では、国土交通省補助事業「令和3年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」に採択されて実施した「京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けた企業誘致推進事業」を中心に報告しました。（ポータルサイト「MATCH YA」の公開、トークセッションの開催などの取組については、本誌97号、99号にて紹介しています。）

また、コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでのイベントや会議を取り入れ、大型町家継承モデルプロジェクトについても着実に進んでいることを報告しました。

令和4年度事業計画では、2年連続で国交省の補助事業を申請し、ポータルサイト「MATCH YA」の拡充によるクリエイティブ拠点の魅力の発信、首都圏のIT企業等向けのトークセッションの開催などを計画しています。なお、国土交通省から7月12日付で、本補助事業の採択を受けました。

また、議事の中で、会員団体の京都府建築工業協同組合、都市居住推進研究会、京都府建築士会からの活動報告が行われ、古材文化の会、京安心すまいセンターからは事業所移転のご案内がありました。

※京安心すまいセンターは6月10日に当財団と同じフロアに移転しました。

京安心すまいセンター（移転後）

大型町家継承モデルプロジェクトの事例

A邸

二条城東にある、秤（はかり）を生業として代々続いてきた京町家です。蛤御門の変の大火をくぐり抜けた蔵が残されています。この京町家を相続された所有者から保全・継承についての相談がありました。

往訪相談を行い、賃貸活用等に向けてのアドバイスを行いました。その後、賃貸募集を経て、入居者が決まり、現在、銀座や北新地に店舗のある鮨店が、営業を開始されています。

B邸

築160年の歴史ある伏見区の京町家では、不動産コンサルティング事業者のコーディネートで、建築士、工務店を決められ、住居として大がかりな改修工事を実施されました。所有者のご厚意により、工事中の現地見学会を開催し、また、撤去されることになった「おくどさん」は、京町家まちづくりファンド改修助成事業に選定された三条会商店街にある京町家に移設されました。

この他にも、京町家等継承ネットでは、複数の大型町家継承プロジェクトに継続的かつ積極的に取組んでいます。

B邸 おくどさん

B邸 現地見学会の様子

GREETING

専務理事就任のごあいさつ

北川 洋一 専務理事
1961年生まれ。
元京都市職員。最後の職は右京区長。
2022年6月から現職。
血液型は「地域密着型」。

皆様こんにちは。本年6月に専務理事に着任しました北川洋一です。

私は、昭和59年4月から令和4年3月までの38年間、京都市役所に奉職し、とりわけ京都市の市民参加や市民協働施策の立案や実行に深く関わらせていただきました。また、平成16年度から19年度には、まちセンの管理課長を務めさせていただきました。

市民主体のまちづくり活動を応援する組織として、平成9年の設立時から期待を寄せ、応援を続けてきたまちセンに、再び運営面で関わることができ、大変うれしく思っております。

京都のまちの課題にしっかり向き合い、市民の皆様とともに明るい未来を創造する団体として、まちセンがさらにその存在感を発揮できるよう尽力してまいる決意です。皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

INTERVIEW

北川専務にお話をきいてみました

1.「まちづくり」そして「まちセン」とのかかわり

平成ひとケタ時代は、画一的な地域開発から個性を生かしたまちづくりへの転換期でした。

京都市で「住民が主体となって進めるまちづくり」を試みる最初のモデルとして白羽の矢が立ったのが、私が当時担当していた嵐山の「公衆トイレ整備事業」。それまで「住民とは説得しなければならない存在」と思い込んでいたのが、この事業を通じて「住民と行政が共に問題解決に取り組むことができる」ことを実感し、私の人生は一変しました(笑)。

その後、住民と行政との間を繋ぐ、第3の機関としてまちセンが設立され、私は迷わず「まちづくりフレンズ」というまちセン応援団の一員になりました。実はまちセンニュースレター第１号から「よ」のクレジットでマンガを描いていましたが、あれも当時のまちセン周辺の方々が、公衆トイレ整備事業の際に描いていたものを面白がってくださったのがきっかけです。

2. 四コマ漫画について

四コマ漫画は、まちセンに親近感を持っていただきたいという思いから、文字だけのニュースレターよりも、絵がある方が手にとってもらいやすいだろうと、載せることになったようです。

裏話をすると、創刊号から連載していた「ぱあとなあ湿布」で、人物を描くのが苦手なことに気づき、次作の「兎思菜盛」ではウサギにしました。実はボツになったものも結構ありました。「まちづくり」というメインテーマから外れていたり、四コマでは書ききれず次回に続いたりするものは採用してもらえず、また一から描き直したりしていました(笑)。

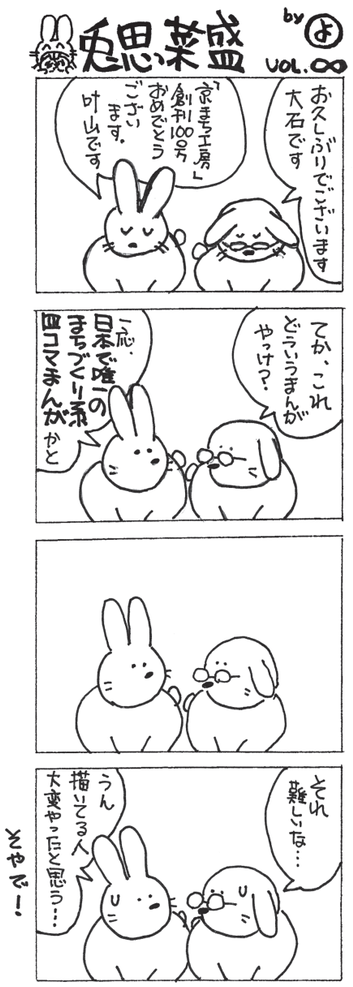
3. この季節のお気に入りスポット

右京区にある仁和寺の東側を山に向かって少し歩き、右に曲がったあたりにある、轉法輪寺(てんぽうりんじ)というお寺です。ここは京都で一番大きな阿弥陀如来座像、御室大仏(おむろだいぶつ)が有名です。個人での参拝は特別拝観の期間にしかできませんが、晩秋は境内の紅葉が見事に色づきます。大仏様もすばらしいので、特別参拝ができる時期に訪ねてみていただきたい場所です。

4.「まちセンのひと」としてまちセンをみて

まちセンは京都市のまちづくりにとってとても価値のあることをしているので、その中身をもっと多くの人たちに知ってもらう必要があると思います。

また、まちセンが先鞭をつけたことが、行政の施策となったり、市民主体の取組として発展してきました。まちセンには常に新たな挑戦が求められています。期待されるフロンティアとしての役割を果たすため次は何に取り組むのか、スタッフの皆さんと共にしっかり考えていきたいと思います。



第25回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

元気で魅力的なまちを目指して

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

高野(こうの) 隆嗣(りゅうじ) 氏

株式会社 地域計画建築研究所(アルパック)　執行役員 計画部長

1992年に株式会社地域計画建築研究所(アルパック)入社。地域振興やまちづくりの支援に取り組んでいる。京都では、四条通や祇園の地区計画策定支援等に携わっている。

地方都市で高校時代を過ごし、将来は漠然と物書きになりたいと考えていました。ある日「家族が幸せに暮らせる器をつくる仕事」をしたいと思い立ち、一転、建築の道に進みました。

大学院を出てから、戦後日本の都市・住宅政策の泰斗、故・西山夘三先生(京都大学名誉教授)の思想に惹かれて、そのご門下である三輪泰司さんがお創りになった当社に入社しました。

初めの十年は修行期間。各地の都市計画や住宅政策、中心市街地活性化など、自治体政策に従事しました。ちょうど十年目の頃、当社が立地する四条繁栄会商店街振興組合のまちづくりに携わるご縁を得ました。三度に渡る地区計画の策定・見直し、内閣府の都市再生モデル調査、四条通の歩道拡幅に係る取組などのほか、祇園や三条など、市内の各地域で携わらせて頂いています。

私たちの仕事は、地域の抱える課題を解決するために関係者の皆さんと協力しながら知恵を絞ること、中でも、目標設定とそこに至る道筋を共有することが肝要です。このため、地域の人たちと信頼関係を構築することが大切なのですが、ご縁の薄いまちでお仕事をさせて頂く場合、なかなか容易(たやす)いことではありません。

京都におけるプロジェクトならば他所では参加できない様々な機会が得られます。「よそ者」が馴染みづらいのは事実ですが、専門家として信頼して頂けると、奥深いところまで見せてくれる懐の深さがあります。

京都は千二百年の永きに渡り、栄華・衰退・再生を繰り返し、たくさんの経験を積み重ねてきました。何度でも再生する強さを持っています。オーバーツーリズムやコロナ禍など近年の苦難を経て、間もなく、完全復活することを確信しています。

地域に暮らし、商いに従事する町衆のみなさんや、まちづくりを担う行政の皆さんとともに、元気で魅力的なサスティナブル都市＝京都のまちづくりに、微力ながら貢献していきたいと思っています。

スタッフのつぶやき

100号の節目となる今号の表紙では、3年ぶりに開催される時代祭を中心に、秋の行事を描いていただきました。ご存知のように、時代祭は明治維新の維新勤皇隊列から平安京造営の頃の延暦文官列までの時代行列で、その時々の著名人や風俗に注目が集まります。

特集は、「『京まち工房』100号の軌跡」と題して、これまでのNLの特集記事などから、まちセンの取組や京都市の施策を時代祭のように(?)振り返りました。連綿と続く京都の歴史の中で、25年(100号)はとても短いですが、現代のまちづくりの主役である地域の皆さんの活動を、これからもご紹介していきたいと思います。

表紙イラスト作者

アトリエ TAM **山口 珠瑛** (やまぐち たまえ)

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。
ユーチューブで京の生活を発信中。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいませ～

「京まち工房100号に寄せて」

100号おめでとうございます!
100号という記念すべき号に表紙絵を描かせていただきとってもうれしいです～

「京まち工房」という愛称は全国から1000近い応募の中から決まったんやて～
『京都のまちを地域の人みんなで1つ1つ手作りでつくっていくイメージ』なんやね～

今回、1号からの歴史ということで、マスコットキャラクターの〝景都ちゃん〟〝マチ右衛門〟、新専務がかつて描かれていた「兎思菜盛」のうさぎさんにも加わっていただき、99号からの京まちくんも加わり、100号の文字を飾らせてもらいました。

これからも京都のまちが地域力で伝統を育みつつ、新しいことに向かっていく姿を楽しみにしております～

時代祭も3年ぶりに行われることになってよかったなぁ～